

茶 生 産 技 術 指 針

(第 2 版)

平成 1 3 年 3 月

熊 本 県

カリの施用量は、窒素施用量の4割から半分程度とされ、リン酸同様、溶脱が窒素より少ないので、秋と春に分けて施用する。

カリも土壌や落葉、投入した堆きゅう肥からの供給があり、一般の茶園では過剰気味な傾向にある。

カリが多いと、拮抗作用がある石灰や苦土の吸収を妨げ欠乏症状を起こす可能性がある。窒素肥料の効きが悪く、葉色の緑が薄いと感じた場合は、カリ過剰と苦土不足を考える必要がある。

以上、リン酸やカリの蓄積量が多い茶園では、窒素を主体とした資材で施肥設計し、秋の深耕時期に、上層と下層を混層するようにする。

標準的な施肥の時期と施用量は、表10のとおりである。

表10 標準的な施肥時期と施用量

時 期	成 分 量(kg/10a)		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
春肥 1 (2月中旬)	9	3	4
春肥 2 (3月中旬)	9	6	8
芽出し肥 (一番茶萌芽直前)	6		
夏肥 1 (5月中旬)	9		
夏肥 2 (6月下旬)	9		
秋肥 1 (8月下旬)	8	6	8
秋肥 2 (9月下旬～ 10月上旬)	6	3	4
年 計	56	18	24

(4) 苦土及び石灰

茶園のような強酸性下では、苦土、石灰とも溶脱が多く、土壌の酸度矯正とともに秋肥前に施用する。苦土が欠乏した場合、葉脈の緑色を除いて黄色になる。

通常10%程度の苦土石灰を換算表を目安に秋肥の前に施用するが、アルカリ分が多いため、速効性窒素肥料と混ぜると窒素成分が揮発する心配があり、施用には間を開ける。

秋肥施用後も、土壌中の苦土が不足する場合は、各茶期前に硫酸苦土を20kg/10a程度施用する。

(5) 肥料の種類と特性

ア 速効性肥料

茶園では、硫安や尿素等の窒素肥料や硫酸カリ、硫酸苦土等を利用する。